

視 察 日 時	令和6年7月2日（火） 15:00～16:30
視 察 先	北海道旭川市 ICTパーク（説明：旭川市経済部経済交流課）
視 察 項 目	ICTを活用した賑わい創出と人材育成、「ICTパーク」の開設について
視 察 概 要	（１）事業導入の経緯について 旭川市は北北海道の商業、物流の拠点になっているほか、医療・福祉、教育、文化などの都市機能が集積する中核都市である。 しかしながら、国内の地方都市同様、少子高齢化の進展や若者の市外転出などから、地元中小企業等の人手不足が課題にもなっている。 一方で、市内には引きこもりの青少年が多くいることが推測されており、社会復帰の取組も課題であった。 人手不足の対応では、今後AIやRPAなどによる課題解決が期待されているが、旭川市にはICT関連プログラマーなどの人材育成の場や青少年がこれらに興味を持つ機会が少ない状況であった。 そこで旭川市では、従来のIT人材の育成手法とは異なる切り口として、<u>eスポーツ（エレクトロニクススポーツ）</u>に着目し、若者がIT技術に興味を持ち、集い、学ぶ機会の創出につなげる構想を企画した。 （２）事業の具体的な取組について 若者たちのITプログラミング学習やeスポーツのスキルアップのための拠点「トレーニングジム」の設置、eスポーツを通じた交流を目的とした「eコミュニケーションスペース」の設置、また、AIやIoT技術等の開発による新ビジネスの共創などを目的としたNTT東日本が運営する「スマートイノベーションラボ北海道旭川ルーム」を設置した。 これらは、中心市街地にあったホテルの1階をリノベーションして開設したものである。 これらの施設のほか同階には、東京の民間企業の運営によるビジネス出張者のためのコワーキングスペースも開設している。利用者が多いとのこと。 もう一つ、eスポーツの北北海道の大会や、練習場所の拠点となる（eスポーツスタジアム）を設置した。 ここは180名収容できる劇場型イベントホールであり、ハイスペックPCが用意されており、配信可能な映像音響設備も完備されている。 また、各種講演会やセミナー、イベント等にも活用されている。 旭川市の姉妹都市である、南さつま市とのゲーム大会も開催されているとのことであった。 設置場所は、ホテルにあった3階の映画館を活用したものである。 これら一連の施設を「ICTパーク」と呼んでいる。 2021年にオープンした「ICTパーク」の設置には、旭川市をはじめ

視 察 概 要	NTT東日本（株）北海道支店、旭川工業専門学校、一般社団法人大雪カムイミントラDMO、旭川商工会議所、旭川情報産業事業協同組合、旭川観光コンベンション協会、一般社団法人上川eスポーツ協会、（株）北海道新聞社旭川支社などから構成された、ICTパーク推進協議会が中心となり立ち上げたものである。 旭川市の多くの関係団体が基盤となっている。 （３） 事業の成果と課題について （成果） ・ eスポーツの認知度が上がり多くの若者（特に高校生）が施設を利用している。 ・ 学校の学習の場として活用している。 eスポーツだけでなく、小学生向け、中学生向けのICT学習会を企画するとすぐに定員オーバーになる状況である。 ・ eスポーツスタジアムのイベントにも多くの若者が集まるようになった。 ・ 市外からIT関連の企業が立地した。 ・ ICT活用については、NTT東日本（株）と旭川高専と地元農家による、トマトの収穫時期の判別をするシステムを開発して実施している例もある。 （課題） ・ 事業開始から３年目であり、更に多くの人に利用していただけるように、情報発信等を行う必要がある。 ・ この施設に関連した企業誘致の実例があるが、今後起業が進むような取組を展開していきたい。 ・ 施設設備のリース期間が今年度で終了するので、経費を低減するための設備更新について検討する必要がある。 （４） 質疑応答 Q：「ICTパーク」の運営について伺う。 A：管理は社団法人大雪カムイミントラDMOに委託している。 運営費については昨年度４，７００万円であった。 国のデジタル田園都市国家構想交付金などの補助を受けており、市の負担については、一般財源から５０％の負担となっている。 Q：「ICTパーク」を核とした交流人口の拡大や、観光面での活用について伺う。 A：周辺自治体と連携を図りながら各種イベントやセミナー等の事業を行い、交流を深めている。
----------------	--

視 察 概 要	観光面では旭山動物園との連携事業について現在検討中である。 外国人観光客は、レトロなゲームに興味があるようなので、滞在中これを提供して楽しんでもらえるように今後も対応していく。 Q：旭川市でも課題となっている引きこもり対策での「ＩＣＴパーク」の活用について伺う。 A：「ＩＣＴパーク」のトレーニングジムに来てゲームを通じて交流している人が増えている。 また、交流施設であるeコミュニケーションスペースを利用して交流が行われている。 一步一步、外に出てこられる環境を整えていきたい。
所 感 (意見・感想・ 今後の課題等)	旭川市の「ＩＣＴパーク」の取組の背景には、 ・ 若者の集まる場所が少なかったこと ・ ＩＣＴ（プログラミング等）を学べる場所がなかったこと ・ 引きこもり対策が必要であったこと これらの課題解決に向けて、若者に人気のあるeスポーツに着目をして事業を企画し、実践した事について評価をしたいと考える。 今やeスポーツ人口は世界中で1億人と言われ、メジャーなスポーツであるサッカー人口2.5億人と比べても多い競技人口である。 2021年に開設した「ＩＣＴパーク」では、ＩＣＴ関連の人材育成やＩＣＴ関連の企業の誘致に加えて、コミュニケーションの場づくりや引きこもり対策への対応、観光戦略の対応など多岐にわたっているが、基本的には人づくりに重きを置いたものであると感じた。 また、この「ＩＣＴパーク」を支えているのは、旭川市や管理団体である一般社団法人大雪カムイミンタラDMOをはじめ、多くの関係団体はその組織の一員になっていることも特筆される点である。 本市においても、多くの若者が自由に集える場所作りは、若者の地元定着を進める上でもまた、人づくりの面に置いても重要なテーマであると考えます。 それには、若者に関心のあることに着目し、(多様な事業展開に結びついていくものと思われる)ソフト面及びハード面からの事業の企画を多くの意見を取り入れて作り上げることがポイントになるものと思う。 さらに、旭川市のように、事業の企画や運営などを支える市の多くの関係団体がその思想やメリットを共有化し、進めることが求められる。 例えば、本市における具体的な展開として、現在進められている市立図書館の構想や運営の手法などについて、若者の視点や観光戦略の視点などから切り込んでいくことも必要であると考えます。 この度の旭川市での視察研修では、課題のポイントを絞り込むと同時に、

	既成概念にこだわらない発想で、事業を企画し運営していく重要性について学んだ。
--	--

報告者：産業建設常任委員会 本間 新兵衛